思えば、ひとりふた役の人生がずっと続いている。中一の時に母が亡くなった。
祖母がいたので家のこと全般に困りごとはなかったが、父は気落ちし、お酒や競馬に逃げ場を求め、借金を作っては高校生の私に怒られていた。親子であり相棒。気が優しいがゆえに弱い部分もある父を、母の代わりに叱咤激励して支えていた。母の死は私だって同じように寂しかったんだろうと思うけど、心配させてはいけないとやせ我慢が先にたった。子どもらしく安心して甘えられたことはなかった気がする。

北海道に来てからは、新参者の嫁なのに家族全員の生活指導もやるという、上なのか下なのかわからない役回り。みんなまかせて可愛いお嫁さんだけをやれたらどんなに楽だったろう。農家あるあるだが、挨拶しない、お礼言わない、相談しない、気分で怒る、毎日不機嫌な（私にはそう見える）顔で仕事をしている。同じ顔ぶれで休みなく働いているんだからそんなもんでしょ、といわんばかり。疑問に思いながら私もそれに従っていたが事件が起こる。初めてお産した若い牛（人慣れしておらず気性が荒い）を移動してくれと牧場の母に頼まれ、夫とふたりで誘導しようとしたが案の定ばたついた。それを遠くでじっと見ていた牧場の父が「なにやってるんだ」とバケツを投げて怒っている。牛飼いの大ベテランが危ない牛とわかっていてなぜ手伝いに来ないのか？指導もせず、失敗した時だけ大声を出すのはなぜ？バケツを投げた音でさらに牛が興奮したやん！どういうつもりなん？と反射的に父の方へ走って行き、関西弁まるだしで抗議。これまで家長の父をとがめる者はおらず、理不尽なことがあっても、家族だからと、言われた方が寛容に許してきたんだろうけど、私が来たからにはそうもいきませんよ、だってまだ他人だからね。とワーワーやっているうちに、夫が止めにきて、私を押さえて、やめろと言ったから、「はぁ？父さんの態度の方をやめろ、やろ」とまた爆発する寸前に母がやってきて、訳を聞いてハハハと笑い「年寄りのやることだから許してやって」とその場はおさまった。
まだまだ言いたいことはあったけど「年寄りだから」＝黄門様の印籠が出たら話は止めるようにしている。それにしても「まだ現役」と「年寄りだから」のツーギアを都合よく使い回す世代には振り回される。今回の事件、家の中で起こったなら、父さんごきげんななめやなぁと苦笑いで許せただろう。だが仕事となると、危険を伴うし時間もロス。
上下関係の前にチームワークじゃないのかな。自然厳しく貧しいときも体張って家族と牛を守ってきた父には敬意を払うし、その存在は絶対なのは理解している。
でもやっぱり何かがおかしい。

知識も経験も豊富で誰よりも慎重な牛飼いの父さんが、なぜこんな事をしたのか？ と考えてみる。

1.息子（夫）に経営を譲ったのはいいが、まかせきれない態度の表れ（普段は遠慮している）
2.自分のテリトリー内で勝手な事をした（ように見え）面白くなかった
3.単純に機嫌が悪かった（牛も父さんも）
4.危険な場面を見て感情的になった
5.どこも行かず誰にも会わず仕事だけしているので視野が狭くなりストレスが溜っている

普段はおとなしく寡黙に仕事をするタイプなだけに、知らず知らずにたまったもやもや。牛が暴れたのをきっかけに短腹（タンパラ＝短気）が出たのでは。私が抗議したときも、もごもごして説明がつかない様子だったので、父は父で言い表わしにくい感情が背景にある。父と息子の間に会話があって、報告がスムーズであれば事件は起きなかった、とも思う。これも農家あるあるだが、父と息子はたいてい仲が悪い。大規模化、機械化により経営法が変わりつつあるから、世代で意見が違ってくるけれど、議論は面倒くさいから会話がなくなる。お互いに「なに考えてるんだか」と思いながら忙しく仕事して、永遠に先送りになってゆくコミュニケーション。そのしわ寄せが私や母にくるという仕組み。まあ、親子だし、仕事も毎日間近で見ているわけだし、面白くはないが相手を汲む気も双方持ち合わせていて仲が良いまではいかずとも、経営がうまくいってればいいでしょう。でも、私がとばっちりを受けるのはごめんやし！ってことで、1～５の解決案を実行。

1.経営を譲った虚無感は本人以外は解決できない。経営内容、牛全体が向上した結果を見せ、譲って良かった、安心して任せられると思ってもらう。譲ったあとも牧場を手助けしてくれることへの感謝、父が担当してくれている仕事の重要さを言葉にして伝える。

2.父担当の牛舎に入る前に一声かける。今日は寒いですね、とか、日の出がきれいだったねくらいのことでいい。担当中の牛の悩みは、言ってくるまでは任せておく。責任者として父をたて、相談してからしか牛を触らない。

3.機嫌が悪いときは、体調のことが繋がっている。腰やひざ、最近どうですか？食べれてる？寝られてる？などその日に応じて気にかける。牛も同じ。同じにして悪いけど（笑）道東は日照時間が短い。それもうつうつする要因のひとつ。

4.危険な場面で感情的になるのはアカン。とストレートに注意する。牛のことで感情的になっていい結末になった試しがない。昔は思い通りにならない牛は棒でたたいたりしていたらしいが、いやな気持ちになるし、危ない。紳士的な酪農家になってください、と常々お願いしている。

5.経営主だった時は、家を空けたこともない父と母に旅行をすすめる。1.が解決してからでないと出かける気分にならなかったようだが、４年程前から「あとは頼むね」と年一回は旅行に出かけ、お土産話を持って帰ってくれるように。ニュージーランド酪農研修旅行へも行ったので、話題が世界の酪農に広がった。話をする目がいきいきしてきた。

相変わらず父と息子（夫）の会話は必要最低限だが、関係性は柔和になった様子。
以来、大きいもめ事はなくなった。私は実父のことをがんがん怒ってきたので、当らず触らずが出来ない性分。牧場の父や母が間違えていたら、知らないふりをして質問からはじめ、じゃあ、一番いいのはこうですよね？に持っていったり、場合によってはズバッと注意しつつも、父さん母さん＝家を思ってのことですよ、と最後にひとこと添える。普通のお嫁さんは、みなまで言えず遠慮して暮らしているのかもしれないので、言いにくい場合は、問題をよその事例として話題にしてみるといいかもしれない。

私「今日の集まりで話題になったんやけど、若奥さんが牛の寝床に敷き藁敷いてならして帰ってきたんやって。そしたら、そこの父さんが後から見に行って黙ってやり直してたらしい。若妻仲間全員でブーイングやったわ。やり直しはいいけど、手法にセンスがない」
父「ただ藁を敷くだけでも、もう少しふわっと、とか、高まりを前方に、ってあるんだよ。同じ直すでも俺やったら違うやり方するなあ。」
私「そうなんや！ベテランの技、教えるわ、てお嫁さんに一声かければよかったねー。ほんなら、どっちにもプラスやったのに」

という具合。客観性を利用し、気づきをうながせるかもしれない。この会話には続きがある。父の時代は、仕事の時間でなくても通りががかって気がついたら牛のまわりをきれいに整える習慣をつけよ、と親からの教えがあったそう。若妻仲間の父さんも他意はなく習慣だったのかもしれない。あちらの家でもこんな会話があったなら…お嫁さんの見解はまた違ったと想像できる。今度若妻仲間で集まったら、おせっかいながら、話し下手な父さんの代弁をしてみるかな。

私が来てから牧場の空気は入れ変わり、それぞれが思う気遣いをしあって、仕事はしやすくなったと感じるが、私自身の痩せ我慢は相変わらずだ。いちばん下っ端ながら、家族と牧場スタッフを背負って先頭を走っている心細さや不安。どこにいても誰といても、私は私で自立していようという気持ちの表れでもあるから、痩せ我慢がなくなることはない。
実父からもらった限りなくポジティブな痩せ我慢と、実母が亡くなったときに芽生えた、苦境も丸め込む想像力でこれからも進む。

最後に牧場の父との今の関係性について。

私「バケツ投げ事件のことは絶対に忘れませんから！父さんに介護が必要になったら必ず仕返しするし。かゆい所に手は届きませんよ、ニヤリ」
父「えっ…それは困るなあ…苦笑」

ブラックユーモアを
しれっと言えるようになったら本物の親子。
言わせてくれる＝娘にしてくれた牧場の父に感謝。

筆者　原田　希　ハラダ ノゾミ

1973年 大阪府吹田市生まれ
2006年 酪農家との結婚を機に
北海道標茶町へ移住
自身も酪農家に
2017年 北海道農業士に認定

北海道指導農業士の夫とともに
新規就農者の支援や、
女性の農業者向けの勉強会、
道外からのお嫁さんの会の
お世話係を担当